

森の日記

2025年4月6日～6月22日

by 迷鳥キツツキ

2025年4月6日は今年最初のカエル産卵調査が行われ、久しぶりに多数の会員が集まりました。朝9時の集合場所の気温は5.9°Cで曇っていましたが、寒すぎず調査には絶好の天候でした。カエルの卵塊は4個認められましたが、去年の第1回はゼロでしたので幸が良いとのこと。成体のエゾアカガエルも1ヶ所で見ました。調査中に川でミンクが1頭出現しました。調査地ではフクジュソウが咲き始め、各種のヤナギの花芽が広がり始め、フキノトウやザゼンソウも出始めていました。



左：集合時の様子、 右：一杯に開いたフクジュソウ。



左：調整池付近にいたミンク、 右：遊歩道脇の池。

4月13日は2回目のカエル産卵調査が行われました。天候は雨のち曇りで、朝9時の調査開始時の気温は6.5°Cで、先週よりも1°C高くなっていました。この1週間の気温上昇を反映して、カエルの卵塊数は著しく増加していました。途中エゾサンショウウオの卵塊も見ました。早春の花々は雨に濡れていたためあまり目立ちませんでした。数えた卵塊数の合計は426個とのこと。好調な滑り出しとなりました。



左：池を調査する会員、 右：エゾアカガエルの卵塊。

4月27日は朝の9時からカエルの産卵状態調査が、午後1時から植物調査が行われました。私は先週カエルの産卵状態調査を休みましたが、その後新たに産まれたエゾアカガエルやエゾサンショウウオの卵塊もありました。調査地ではアズマイチゲ、キバナノアマナ、エゾエンゴサクなどの花が開花していました。



左：池の観察、 右：川沿いに咲いたミズバショウ。

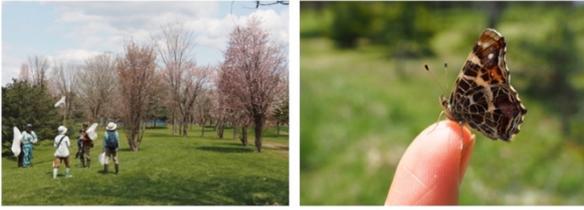
午後1時からの植物調査では、各種のヤナギ、カラマツの新芽と雄花、芽生え始めた各種の小さな植物、ハコベ、ミミナグサ、アオイスミレ、クサノオウ、イヌナズナ、オオイタドリ、フデリンドウなどを観察することができました。1日盛りだくさんの内容でした。



左：カラマツの新葉と雄花、 右：フデリンドウの芽生え。

5月6日は今年初めてのチョウの調査と森の中での総会が行われました。往路および調査中の森の中では桜が満開になっていました。調査中に現れたチョウはモンシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウ、ルリシジミ、アカマダラ、シータテハなど

でした。チョウの他にルート上の草花も楽しみながら歩きました。オオバナノエンレイソウやニリンソウが咲き始めていました。



左：桜満開のチョウの調査、 右：アカマダラ。

総会は森の中の観察小屋の前で行われました。総会后インデアンカレーをめいめいが持ち寄ったご飯やパンにかけて食べました。終日、久しぶりの快晴で気温も高く快適でした。



左：インデアンカレー、 右：バースデーケーキ。

5月18日の午前中はエゾリスの会の活動場所およびその周辺のゴミ拾いを行い、その後森の中の調査路に間伐材の粉碎チップを撒きました。



左：ゴミの分別、 右：間伐材チップの散布。

5月18日の午後はチョウの調査を行いました。ミヤマセセリ、スジグロシロチョウ、エゾヒメシロチョウ、モンシロチョウ、クジャクチョウなどを見ましたが、午後は曇りがちになったため、出現数は少ないようでした。午前午後ともに活動の間に春の植物も楽しみました。オオバナノエンレイソウやニリンソウが満

開状態になり、ベニバナイチヤクソウ、コンロンソウ、フデリンドウなどが咲き始めていました。



左：チョウを追うシニアとジュニア、 右：ミヤマセセリ。

5月31日は朝の9時から植物調査が行われました。

朝の5時から鳥類調査もあったのですが、体調不良のためそちらは欠席しました。森の中は新緑が鮮やかで、新たに咲いた花もいろいろありました。鳥の鳴き声も賑やかでした。早めに集合場所に着いたので、第2柏林台川の谷へ降りる道もあらかじめ探索してみました。オオバナノエンレイソウやニリンソウの花期はほとんど終わっていましたが、ユキザサの花が全盛になりました。ミツバウツギやコンロンソウ、クルマバソウ、バイケイソウ、ルイヨウボタンなどの花も見ることができました。調査では、私はヤナギ類が多い右回りのルートに参加しました。ヤナギ類は全て綿毛の実の状態になっていました。途中、判別のむつかしいヤマガラシやハコベの仲間もじっくりと観察しました。オニグルミの赤い雌花も近くから見る事ができました。



左：朝の集合時の様子、 右：クルマバソウ。

6月1日はエゾリス頭数調査(6:00 から)とチョウの調査(10:00 から)がありましたが、私は所用のためチョウの調査から参加しました。チョウの調査には子供たちも含めて10人ほどが集まりました。朝の気温が10時に11°Cと低めだったためか、森の中ではあまりチョウが現れませんでした。しかし、草原部にさしかかるあたりからさまざまなチョウが現れました。現れた

チョウはスジグロシロチョウ、クロヒカゲ、ルリシジミ、コムシジ、サカハチョウ、ミヤマセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ベニシジミなどでした。約4キロメートルを3時間かけて途中で休憩しながら調査しました。終了時の午後1時の気温は19°Cくらいで、快適な調査ができました。



左：パークゴルフ場の南側、 右：コムシジ。



左：アカマダラ、 右：サカハチョウ。

6月8日の午前中は里山づくり活動が行われました。航空法による伐採跡地にオオアワダチソウが繁茂したので除去し、5から6年前に近くの森から森林性の幼植物や種子を移植した試験地があります。その試験地で移植した植物の定着状況とオオアワダチソウの残存状況を調べました。最後に試験地内のオオアワダチソウと、増えるとやっかいなムラサキツメクサやヤブマメを除去しました。毎年の除去によって試験地内のオオアワダチソウの数はだいぶ少なくなってきました。



左：作業中のメンバー、 右：抜いた草で作った熊棚。

6月15日の午前中はチョウの調査が行われました。曇天であったためチョウの出現数は少なかったですが、ヒメウラナミジャノメはたくさんいました。他に

もミヤマカラスアゲハの幼虫やその他の様々な草花類をたくさん見ることができ、虫と植物の観察会のような会となりました。



左：幼虫を観察中、 右：ミヤマカラスアゲハの幼虫。



左：スジグロシロチョウ、 右：ヒメウラナミジャノメ。

6月22日は午後から植物調査が行われました。当日は早朝5時から鳥類調査、午前9時からチョウの調査も予定されていましたが、降雨のため中止となりました。植物調査は通常のルート上での開花結実植物の有無のチェックに加えて、指標種の全数調査が加わったのでいつもの2倍大変でした。しかし、今まで見たことがなかった植物を見つけることができました。いつも見る植物の中ではオオウバユリの蕾が大きくふくらみ、ヤマグワの実が黒ずんで甘くなってきました。



左：集合時の様子、 右：指標種の全数調査。



左：オオウバユリ、中：同定確認中、 右：エゾノレンリソウ